

特定非営利活動法人 日本免疫学会
平成 24 年度 Tadamitsu Kishimoto International Travel Award
研究発表報告書

申請者氏名	前田 優香	会員番号	00031657
申請者の 所属・職名	大阪大学 免疫学フロンティア研究センター 実験免疫学		
出席会議名	Cancer Research Institute 20 th Annual International Cancer Immunotherapy Symposium		
発表論文 タイトル	Immunosuppression by regulatory T cells in malignant melanoma		

実施結果:

2012年10月1日～3日まで、米国・ニューヨーク市で開催されたCancer Research Institute, 20th Annual International Cancer Immunotherapy Symposiumへ参加した。悪性黒色腫(メラノーマ)における制御性T細胞(Treg)による抗腫瘍免疫応答の抑制についての研究成果を報告した。腫瘍局所に浸潤しているTregとキラーCD8 T細胞の存在比が予後と相関するという報告はなされているが、浸潤Tregの詳細な表現型についての検討はされていない。そこで、当研究室から報告した新規Treg分類方法によって腫瘍局所を検討した。CD45RA/Foxp3を用いた染色パターンにより腫瘍局所に浸潤しているTregのサブセットを特定し、さらに特異的マーカーを同定した。この研究成果を基盤に臨床治験が大阪大学付属病院にて計画されている。今回の学会のテーマはがん免疫研究から免疫療法へのトランスレーショナルリサーチであり、本邦で行う予定である臨床治験についてアピールすることが出来た。

また、Memorial Sloan-Kettering Cancer CenterのDr.Jedd Wolchokの研究室で現在までの研究のover viewを発表する機会を得た。Jedd研は多くの免疫治療の臨床試験を行い、世界のがん免疫療法をリードしてきた。とりわけ、抗CTLA-4抗体の第3相試験によりメラノーマでの有効性を示し、臨床応用したことは特筆すべき成果である。Memorial Sloan-Kettering Cancer Centerは世界各国から多くの優秀な研究者が集まり活気に満ちており今後の研究生活への良い刺激となった。

今回、Tadamitsu Kishimoto International Travel Awardに選出して頂き、岸本 忠三先生、日本免疫学会の先生方に厚く御礼申し上げます。

今回は一昨年11月に逝去された“近代がん免疫の父”と称されるDr.Lloyd Oldのメモリアルミーティングでもあった。指導教官がOld研出身であるため修士学生の頃からニューヨークでの学会の際には必ず研究成果を報告し貴重なアドバイスを頂きました。この場をおかりして、心からご冥福をお祈りいたします。